

「水の都」大阪だけの新しい物語を地元の皆さんと綴りたい。

にぎわいが生まれてこそ、
都市は再生できる

——橋爪さんは多彩な領域で活躍されていますが、現在はとくに「水都大阪2009」のプロデューサーとして奮闘中だとうかがっています。市民の間ではお祭りムードが高まっていますが、ここで改めて「水都大阪2009」について教えてください。

橋爪 「水都大阪2009」は、大阪という都市の再生を目的としています。都市再生にあたっては個性をアピールすることが肝要ですが、大阪には都心部に「口の字型」に5つの川が流れています。その水際の立地を活かしたプログラムを計画中です。

——大阪は古くから「水の都」と言われていますが…。

橋爪 そう呼ばれだしたのは、明治の半ばだとされています。当時は「東洋のベニス」と謳われるほど、美しい水際があったとか。その後、産業都市として発達する中でバリやニューヨークなどにたどえられるようになりますが、「水の都」との呼び名は健在でした。戦後は薄れつあります

——都市再生と言えば、中之島の再開発や京阪の新線、朝日放送本社のある「ほたるまち」などが思い浮かびます。

橋爪 そうしたハード面も大切ですが、やはりソフト面の充実も欠かせません。新しいビルが完成し、公園がつくられ、鉄道が通つても、人々が水際を使いこなし、にぎわいが生まれない限り、

——一人ひとりの意気込みが

大阪の街を元氣にする

——水都大阪を完全復活させるために、私たち



中之島公園改修計画イメージベース(8月22日オープン予定)

真の都市再生はあり得ないです。

——その足がかりの一つが

「水都大阪2009」というイベントなんですね。

橋爪 じつを言うと私は「水都大阪

2009」をイベントだとは思っていません。今年を「水の都」再生のシンボルイヤーと位置づけ、今後は運動として継続していくことと呼びかけています。まずは水際の名所を見直し、また新しい名所を作つていきたいですね。

——新しい名所をつくるには、どうすればいいのですか?

橋爪 基本は魅力的な風景をつくること。それを人々は名所と呼び、そこで芽吹く様々な産物を名物と言います。水際の新しい名所から、新しい名物が生まれてくれば、自然に多くの人が集まつて、物語を語りだす。そのようにして、「水都大阪」の物話をもう一度紡ぎ直し、次世代に渡していくことが、今この街で暮らす者の使命だと思つています。

橋爪 市民の皆さんにはイベントに参加するといふより、「水の都」を復活させようとするとムーブメントに加わる、それも主体的に関わるという意識を持つて欲しい。いまは行政が中心ですが、自分たち自身で毎年大きくしていこうという輪が広がれば、本当の意味で市民の祭りになります。そして、そういうものが幾つも立ち現れてくる街はとても元気なんです。われらが大阪をぜひ自分たちの手で、ますます元気な街にしていきましょう。

interview

インタビュー：未来への提言

橋爪 紳也さん

Hashizume Shinya

大阪府立大学教授
「水都大阪2009」プロデューサー



毎回著名人をお招きし、大阪の明るい未来づくりについて伺います。第1回目のゲストは建築史家であり、関西都市文化の研究家でもある橋爪紳也さんです。大阪で生まれ育った橋爪さんは、現在も大阪を舞台に様々な活動を展開中。今回は開幕を目前に控えた「水都大阪2009」を中心に、今後私たちがめざすべき大阪の姿についてお話を伺いました。